

2007年度 中間期 決算説明会

富士フイルム ホールディングス株式会社
2007年10月30日



本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おき下さい。

2007年度中間期 連結業績

主要製品の販売数量増に加え、為替影響及び構造改革効果等により増益

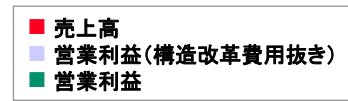
(単位:億円)

	2007年度 中間期		2006年度 中間期		増減	
	金額	%	金額	%	金額	%
売上高	100.0%	14,080	100.0%	13,520	+560	+4.1
営業利益①	7.7%	1,086	6.9%	927	+159	+17.1
構造改革費用		-		420	-420	-
営業利益②	7.7%	1,086	3.8%	507	+579	+114.0
税引前利益	8.2%	1,147	4.2%	566	+581	+102.7
当期純利益	4.6%	646	1.8%	238	+408	+171.6
1株当たり当期純利益		126.48円		46.65円		+79.83円

為替:米ドル	119円	115円	+4円
ユーロ	162円	145円	+17円

■ イメージング ソリューション

売上高*・営業利益

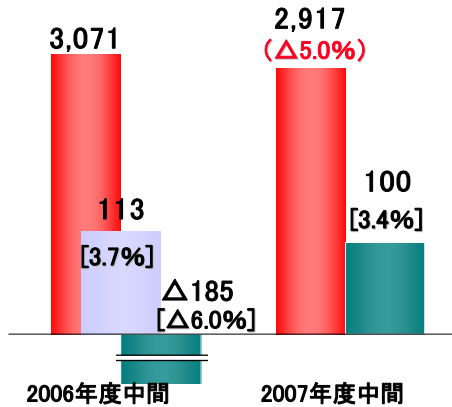


単位:億円
[]:営業利益率
():前年比

売上高

2,917億円(前年比 5.0%減)

- カラーフィルムやデジタルミニラボの需要が後退する中デジタルカメラ及びカラーペーパーの売上が増加。



営業利益

100億円(前年比 黒字化)
(構造改革費用を除く前年比 10.8%減)

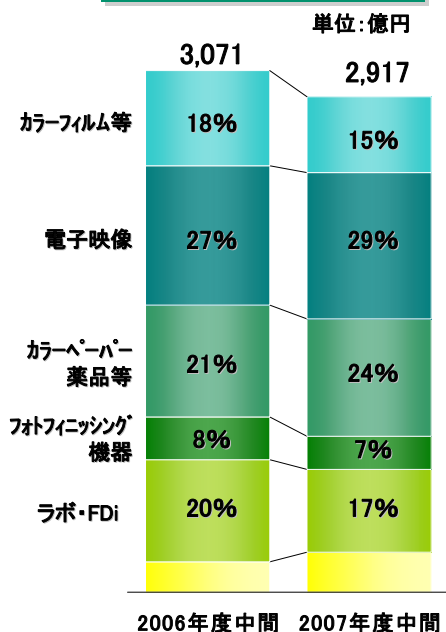
- 銀価格の高止まりの影響を受けたものの、構造改革によるコスト改善効果及び為替レートの円安効果が加わり、黒字化。

*セグメント間取引消去後

事業別セグメント情報

【事業別ハイライト】

売上構成比



カラーフィルム等

前年比: 21%減

- 需要減少の中、売上は減少したものの、競合他社の市場撤退を捉え、市場シェアを拡大。

電子映像

前年比: 5%増

- 上期のデジタルカメラ販売数量は、ワールドワイドで前年比36%増の435万台と計画を上回った。
- 8月以降、「FinePix」シリーズをフルモデルチェンジ。進化した顔キレイナビ搭載の「F50fd」、超スリムボディの「Z100fd」、ロングズーム「S8000fd」、海外で展開する「Z10fd」などが、売上増に寄与。

カラーペーパー・薬品等

前年比: 6%増

- デジカメプリントの増加等により引き続き売上は増加。
- 三菱製紙㈱との間で写真印画紙の生産性向上を狙った提携を実施。

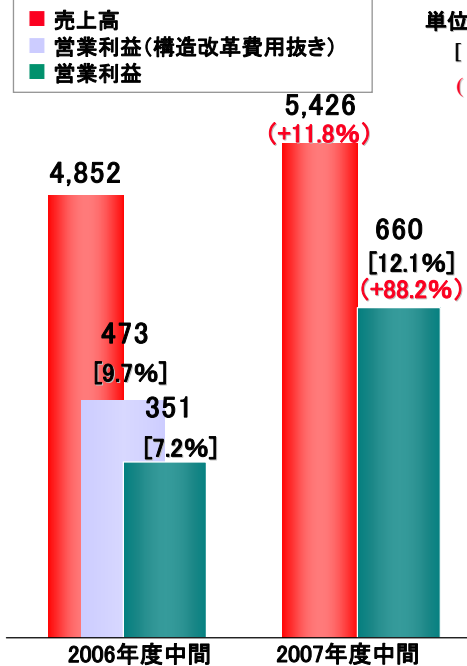
フォトフィニッシング機器

前年比: 20%減

- 大手取引先への導入が一巡し、新規需要は低迷。
- フロンティアを核に店頭受付機、KIOSKなど幅広いユーザーニーズに応える“Expanding Frontier”ソリューションを展開。

■ インフォメーション ソリューション

売上高*・営業利益



単位: 億円
 []: 営業利益率
 (): 前年比

売上高

5,426億円(前年比 11.8%増)

- メディカルシステム事業、フラットパネルディスプレイ材料、カメラ付き携帯電話用レンズユニットなど主要事業が引き続き堅調に推移。

営業利益

660億円(前年比 88.2%増)
 (構造改革費用を除く前年比 39.5%増)

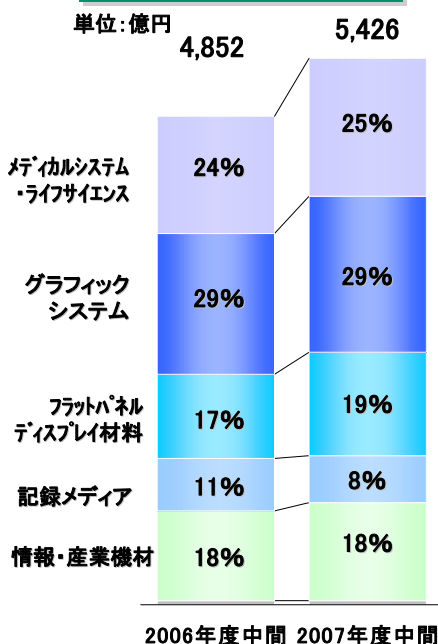
- 主要製品の販売数量増による利益増、為替レートの円安効果などにより大幅増益。

*セグメント間取引消去後

事業別セグメント情報

【事業別ハイライト】

売上構成比



メディカルシステム・ライフサイエンス

前年比: 17%増

- FCR、ドライフィルム、「SYNAPSE」、内視鏡の販売が伸長。
- 昨年10月に買収した富士フィルムRIファーマ(株)の売上も寄与。
- 直接変換方式FPD(フラットパネルディスプレイ)搭載デジタルX線画像診断装置を販売開始。
- ライフサイエンスでは、「ASTALIFT」シリーズ、マルチサプリメント2種を販売開始。

グラフィックシステム

前年比: 11%増

- 引き続きワールドワイドでCTP化が進展。製版フィルムの販売も堅調に推移。
- 世界最速の業務用UVインクジェット機(FUJIFILM Sericol社製UVインク対応)の販売も順調に拡大。

フラットパネルディスプレイ材料

前年比: 23%増

- 「WVフィルム」を始め、VA、IPSモード向け高付加価値フィルムの販売も引き続き好調に推移。
- 富士フィルム九州(株)第2工場のフジタック製造ラインは予定通り8月から稼働。

記録メディア

前年比: 12%減

- エンタープライズ用データカートリッジの販売は好調に推移した一方、ミッドレンジ系での価格競争激化により売上は減少。

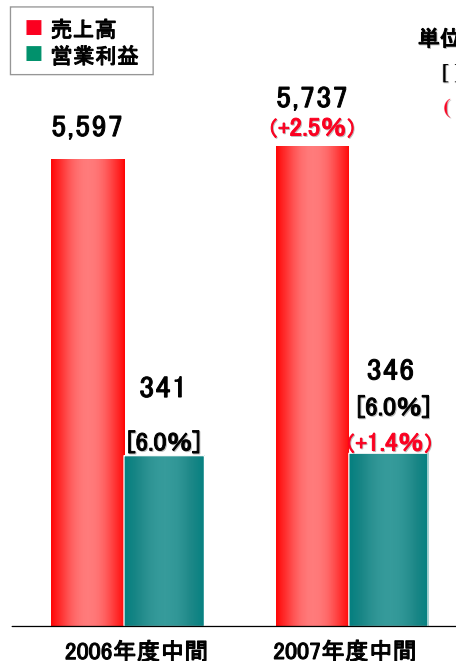
情報・産業機材

前年比: 10%増

- 光学デバイス分野で高画素化の進展を背景にカメラ付き携帯電話用レンズユニットの売上が大幅拡大。

■ ドキュメント ソリューション

売上高*・営業利益



単位: 億円
 []: 営業利益率
 (): 前年比

売上高

5,737億円(前年比 2.5%増)

- カラーデジタル複合機やオンデマンド・パブリッシングシステムのアジア・中国地域での販売及び欧米向け輸出が好調に推移し増収。

営業利益

346億円(前年比 1.4%増)

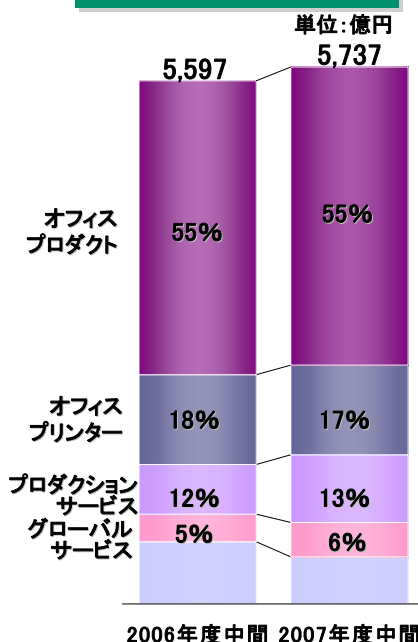
- 成長領域であるアジア・中国における販売増に伴い「販売費・一般管理費」が増加したものの、オフィスプロダクト事業の売上増加などにより増益。

*セグメント間取引消去後

事業別セグメント情報

【事業別ハイライト】

売上構成比



単位: 億円

オフィスプロダクト 前年比: 4%増

- 国内においては、カラー中高速複合機「ApeosPort- II」シリーズ、カラー普及機「DocuCentre C2100」の販売台数が増加。
- アジア・中国地域でカラー機の販売が大幅に増加。欧米向け輸出では、複合機出荷の継続的な増加に伴い、消耗品出荷も増加。

オフィスプリンター 前年比: 3%減

- 国内及び欧米向けOEM供給先の販売減の影響を受け出荷台数が減少。
- 国内自社ブランド商品は、「DocuPrint C3050」を中心に販売が増加。

プロダクションサービス 前年比: 7%増

- 欧米向け輸出ではカラーエントリーモデルの「DocuColor 5000 Digital Press」の出荷台数が増加。
- アジア・中国地域においては、カラーエントリーモデルに加え、「DocuCentre f1100 GA」の販売台数が増加。

グローバルサービス 前年比: 19%増

- ドキュメントアウトソーシングビジネスが国内外ともに引き続き伸長。
- 内部統制アドバイザーセンターを開設し、内部統制対応を強化。

■ スリム & ストロング活動

- より強い個・より強い組織の確立による「**企業文化の変革**」
- スリムでストロングな「**強靱な企業体質**」の実現



- 製造原価の削減
- SG&A費比率の低減
- R&D費の効率使用

活動のポイント

- 社員の意識改革 「チャレンジング」「ダイナミック」「スピーディー」
- 職場レベルから組織横断プロジェクトまで、課題に応じた仕事・仕組みのゼロベースの見直し
- 活動進捗状況の定期的チェックと徹底的なフォロー（持株会社がリード）

推進体制 -グループ全体を巻き込む活動-

グループ執行役員会議による進捗マネジメント

調達 製造 研究 販売

事業部A 調達・製造・研究・販売を串刺しにした事業部軸での活動

事業部B

事業部C・D・E・・・

調達・製造・研究・販売それぞれの部門での活動

グループ全体に跨る活動

- シェアードサービス化
- 物流分野
- 保険分野 etc.

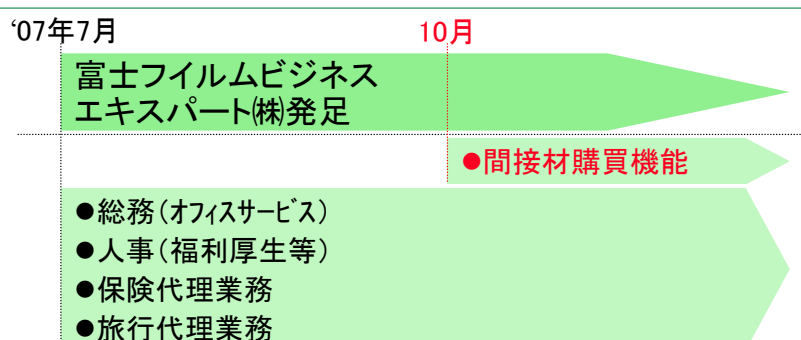
■ スリム & ストロング活動の展開

● デジタルカメラ事業の構造改革

デジタルカメラ事業の強化に向けた展開

- デジカメ生産の中国への全面シフト・CCD生産の外部委託による生産体制の最適化
- 拠点の集約によるデジカメ開発体制の効率化・スピードアップ

● シェアードサービス会社の設立

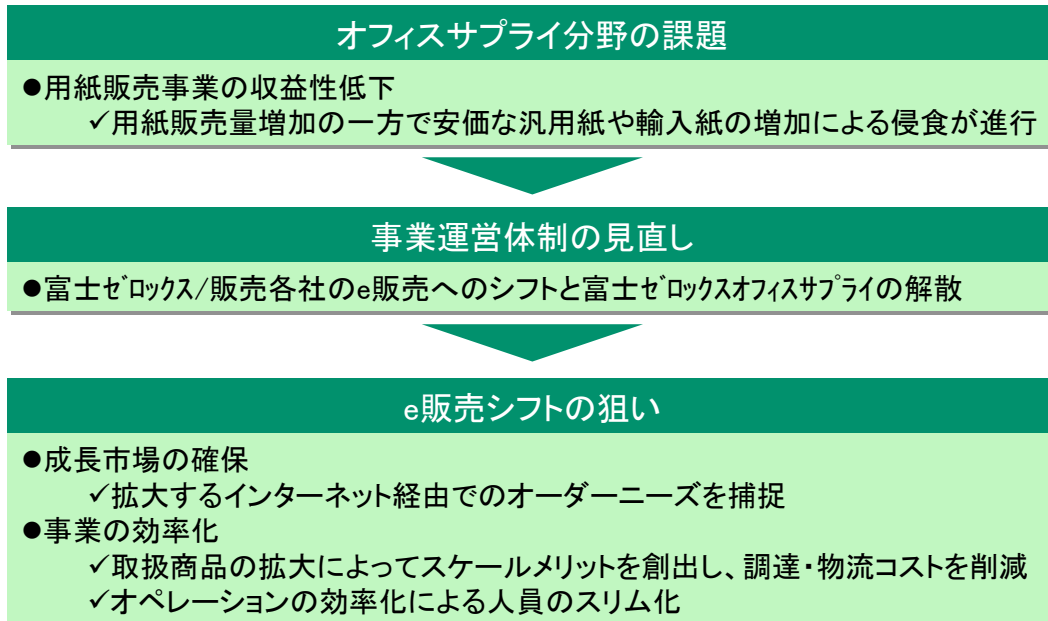


狙い

連結ベースでの
更なる効率化を実現

■ スリム&ストロング活動の展開

● オフィスサプライビジネスの再編 -ドキュメントソリューション-



10

2007年度 業績見通し

営業利益への「マイナス影響」の増加を、拡販・コストダウンでカバーし、**2,100億円(過去最高益)**を達成する見通しへ

(単位:億円)

	2007年度 修正予想		2007年度 当初予想		対当初予想		2006年度 実績	
	金額	%	金額	%	金額	%	金額	%
売上高	100.0%	28,500	100.0%	28,500	-	-	100.0%	27,825
営業利益	7.4%	2,100	7.0%	2,000	+100	+5.0	4.1%	1,130
税引前利益	7.4%	2,100	7.0%	2,000	+100	+5.0	3.7%	1,032
当期純利益	4.2%	1,200	4.2%	1,200	-	-	1.2%	344
為替 : 米ドル		115円		115円		-円		117円
: ユーロ		156円		145円		+11円		149円

※ マイナス影響額	△400	△300	△100
--------------	------	------	------

※ 減価償却方法の変更による経費増、スリム&ストロング活動費用、為替レート/原材料価格

11

■ 配当と自社株買いの実績と見通し

●新株主還元方針(2007年度～)

株主還元性向

$$(\text{配当額} + \text{自社株買い}) \div \text{連結純利益} = 25\% \text{を目標}$$

●2007年度の見通し

■ 配当額

中間(実績) 17.50円(対前年5円増)

年間(予定) 35円(対前年10円増)

■ 自社株買い(実績)

10/1-10/15 買付株数 2,700千株
取得額 147億円

株主還元性向

27%台(見通し)

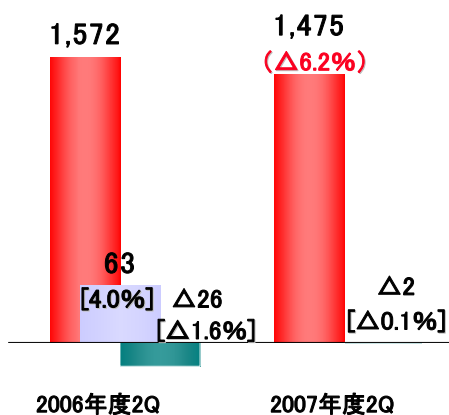
参考データ

■ イメージング ソリューション 第2四半期

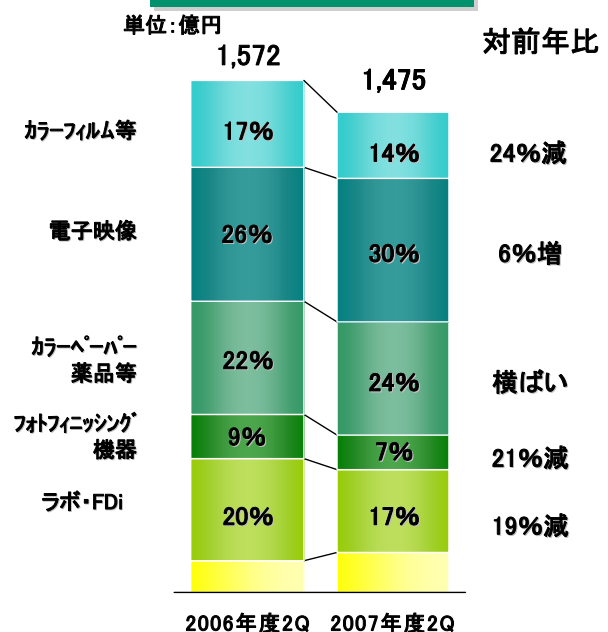
売上高*・営業利益

■ 売上高
■ 営業利益(構造改革費用抜き)
■ 営業利益

単位:億円
[]:営業利益率
():前年比



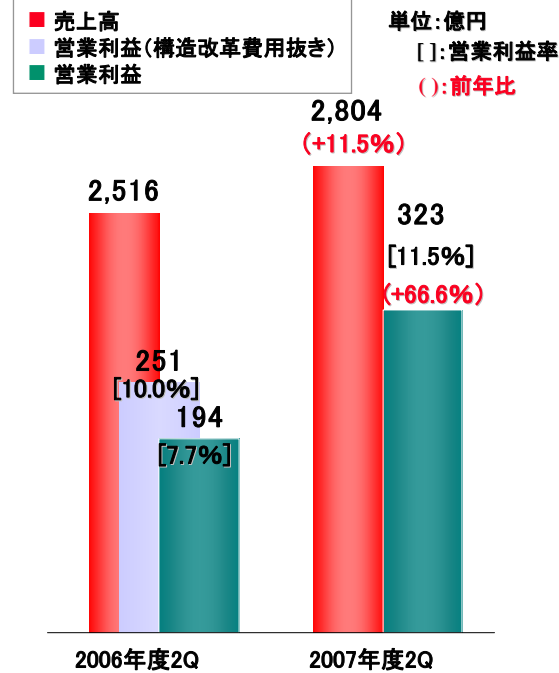
売上構成比



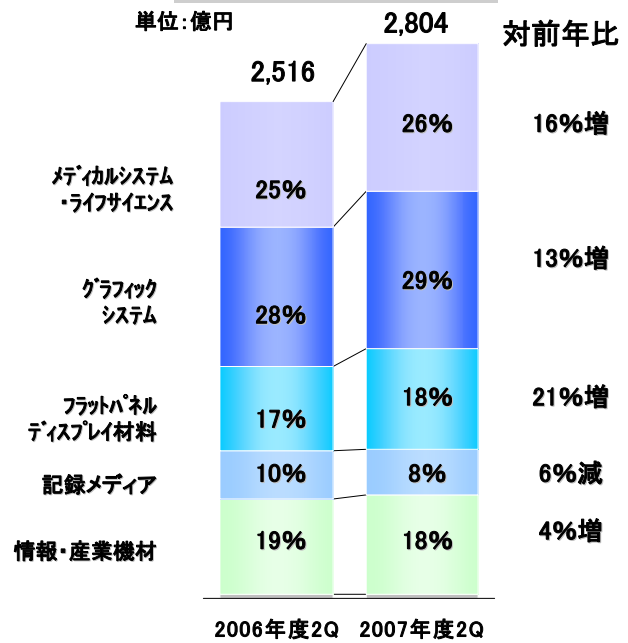
*セグメント間取引消去後

■ インフォメーション ソリューション 第2四半期

売上高*・営業利益



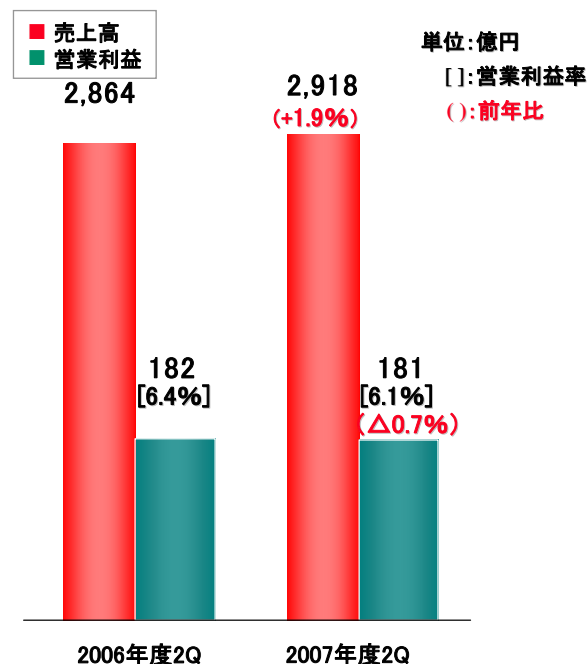
売上構成比



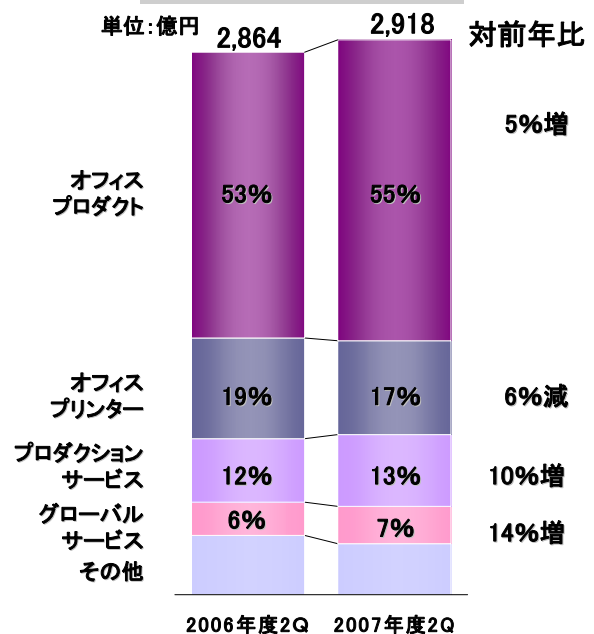
*セグメント間取引消去後

■ ドキュメント ソリューション 第2四半期

売上高*・営業利益



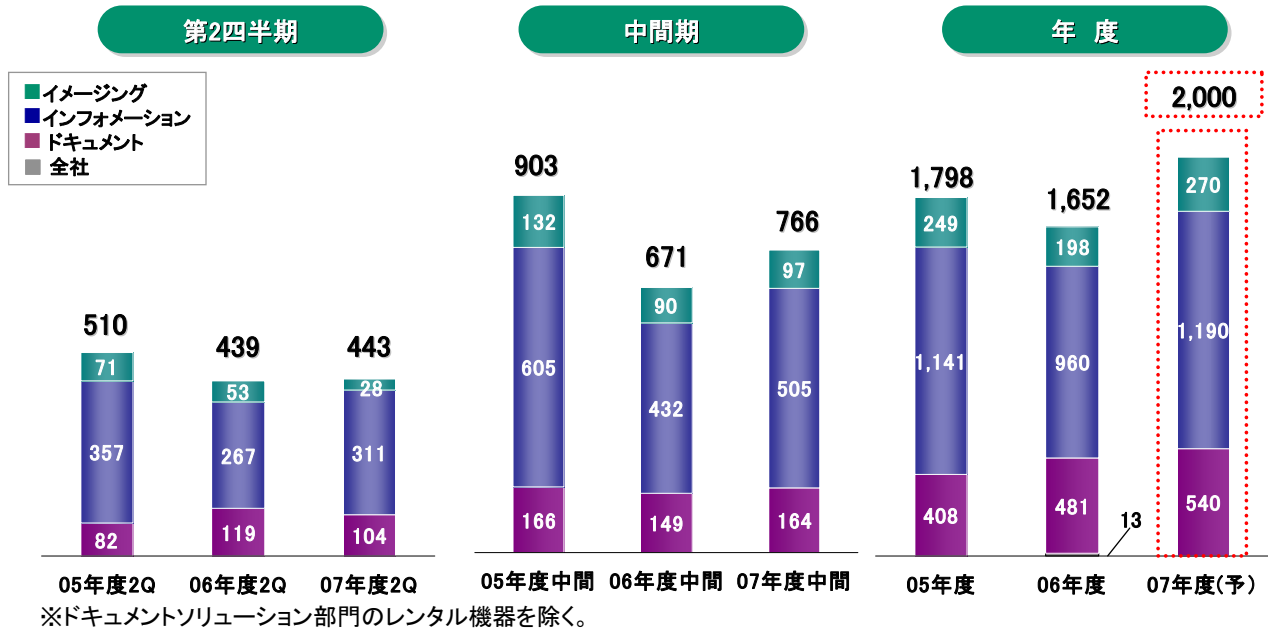
売上構成比



*セグメント間取引消去後

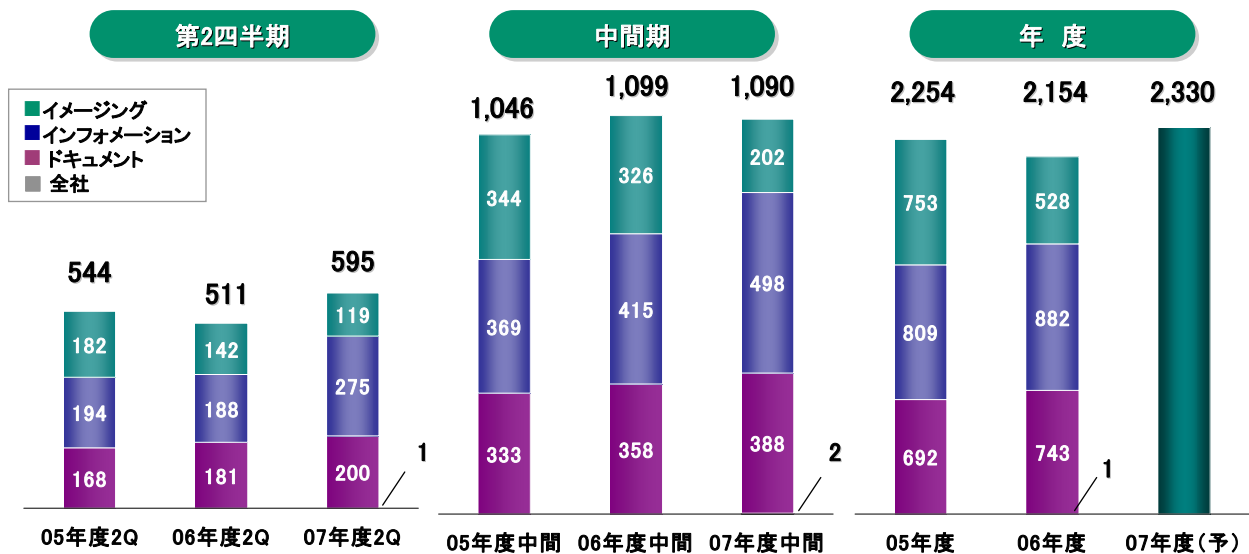
■ 有形固定資産の設備投資額*

(単位:億円)



■ 減価償却費

(単位:億円)



有形固定資産*の減価償却費

383	282	399	691	757	726	1,569	1,464	1,630
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-------	-------	-------

※ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く

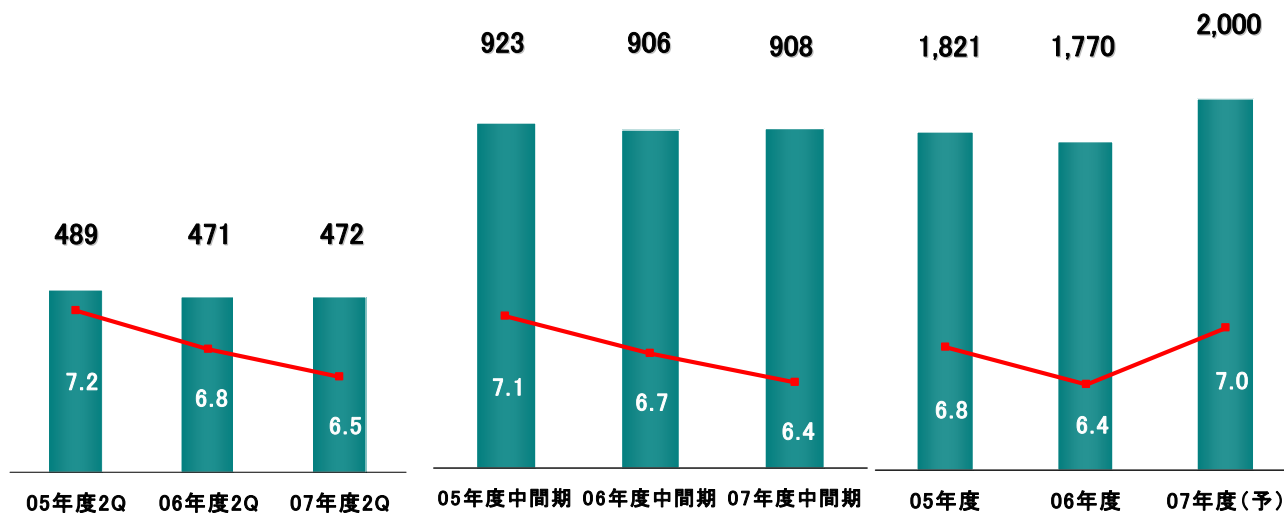
■ 研究開発費

(単位:億円)

第2四半期

中間期

年度



—■— :売上高に対する研究開発費の比率 (%)

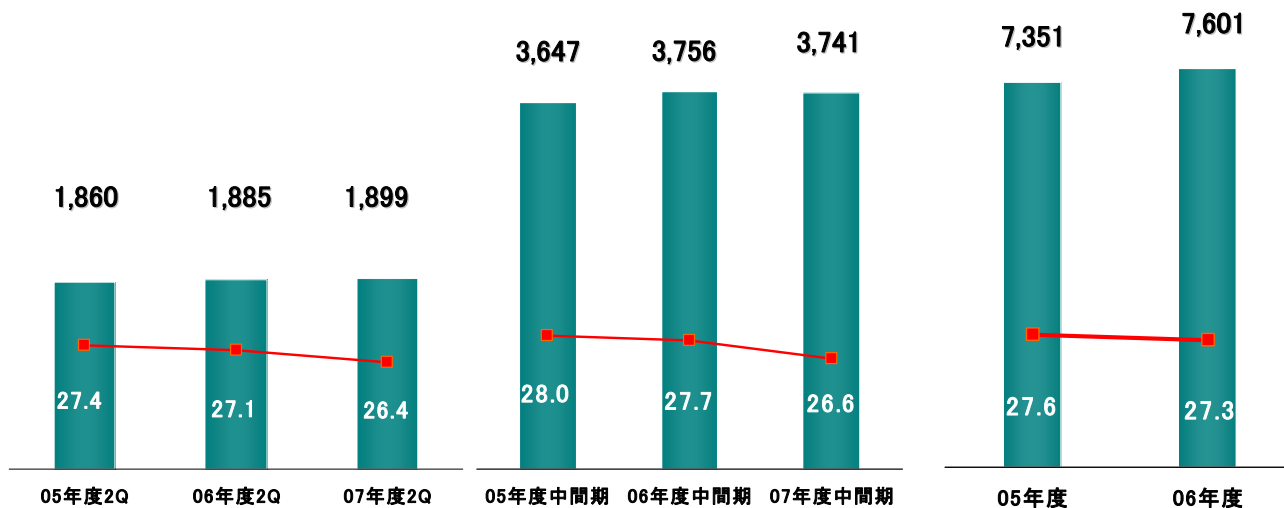
■ 販売費及び一般管理費

(単位:億円)

第2四半期

中間期

年度



—■— :売上高に対する販売費及び一般管理費の比率 (%)

■ 為替、人員、株主構成

● 為替

(単位:円)

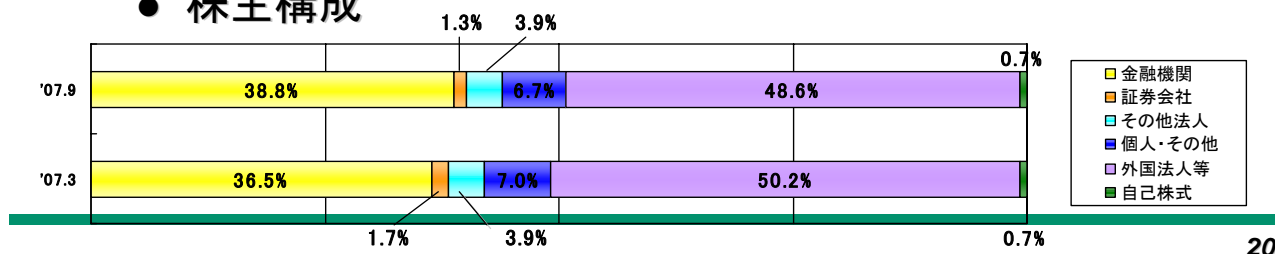
	2007年度					2006年度				
	上期		下期	年度 (予)	上期		下期	年度		
	1Q	2Q	(予)		1Q	2Q	(予)			
米ドル	121	118	119	110	115	115	116	115	118	117
ユーロ	162	162	162	150	156	143	147	145	153	149

● 人員

(単位:名)

	2007.9末	2007.6末	2007.3末	2006.12末	2006.9末
連結	77,555	78,161	76,358	77,838	78,411

● 株主構成



わたしたちは、先進・独自の技術をもって、
 最高品質の商品やサービスを提供する事により、
 社会の文化・科学・技術・産業の発展、
 健康増進、環境保持に貢献し、
 人々のクオリティ オブ ライフのさらなる向上に寄与します。

富士フイルム ホールディングス株式会社

経営企画部 IR室

<http://www.fujifilmholdings.com>